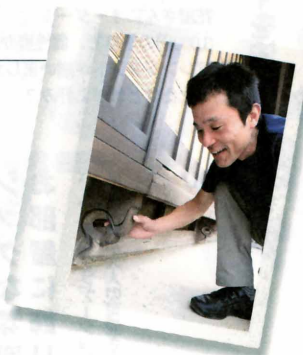


日本酒はうまい!

大工一元 代表

新迫弘康さん



岩瀬の古い街並みに残る 伝統的家屋を復元・修復する

一人で行った修復工事が市の
伝統的家屋修景事業に認定

「奥が昔からあった部分。そこだけ
は状態がよかった部分で残して、
手前の部分は新しく作って繋げま
した。よく見ると色が違うでしょ
」と、出格子の下にある持送りとい
う飾り部分を説明する新迫さん。
岩瀬の伝統的家屋の修復作業を請
け負う大工の棟梁だ。

数年前から、岩瀬の古い街並み
を残そうという動きが活発になっ
ていた。その頃、たまたま岩瀬に
来ていた新迫さんに修復作業の依
頼が舞い込んだ。「願っても叶わ
ない仕事だと思っ、すぐに引き受
けました」。最初に手掛けたのが



Profile

(しんさこひろやす) 岡山県出身、富山市在住。
1968年生まれ。富山大学を卒業後、工務店での勤
務中に富山国際職業学院の開校を知り、第一期生
として入学する。卒業後、「大工一元 (いちもと)」
を立ち上げ、岩瀬の古い街並み再生修復工事に携
わる。日本酒をこよなく愛する若き棟梁。

「そば屋丹生庵」。全ての作業を4カ
月かけて一人で行った。「小さな細
工までしっかりとした技術が施され
ていて、勉強になりました。それ
に、部材の一部だけ色があせてい
たら日が当たっていたのかなとか、
この穴は釘が刺さってあいたんだ
とか。建設当時が想像できてお
もしろかったですよ。」

その後、富山市が戦前に建てら
れた伝統的家屋の維持・復元を助
成する「伝統的家屋修景事業」が
始まり、岩瀬の本格的な街並み再
生事業が始まった。

「いい仕事」をすることで
大工の思想と技術を残す

現在岩瀬で手掛けている修復工
事は5軒。今では10人の大工と共
に作業を行っており、そのほとん
どが母校である職業学院の出身だ
という。「大工道具を使う、いい技
術を知るなど、学校で教えられた
思想を現場で実践するにはうって
つけの場所。もっと来てほしいく
らい(笑)」と、高い思想を持った
仲間と日々勉強しながら作業を続
けている。

「岩瀬は北前船の港町で栄えた街。
だから建物に使われる材料もそれ
を建てた大工の技術も一流なん
です。この通りの建物は大体1200年
前に建てられたものがほとんどで
すが、今でも残っているのは「いい
仕事」をしているから。自分がや
っている仕事は1000年前の技術を
100年後に伝える仕事なんです」。
熱い思いに支えられながら着々と
再生しつつある岩瀬の街並み。
これからも目が離せそうにない。